

## 多面的機能支払交付金

# 環境保全、活性化へ

## 推進シンポで事例発表

関東農政局

ビオトープづくり □ 農村文化継承 □ 農地集積

関東農政局は19日、さいたま市で多面的機能支払推進シンポジウムを開いた。国の多面的機能支払交付金を活用して地域の環境を保全し、活性化に成功した優良事例を紹介、農業、農村の持つ多面的機能の大切さを共有した。関東1都9県の農家ら240人が参加した。

事例発表では、茨城県 さん(62)が、遊休地を  
笠間市の「原宿の環境を 活用した「ビオトープ」  
よくする会」の橋本正男 さん(62)が、遊休地を  
活用した「ビオトープ」 同会は、農家だけでな  
びくする会」の橋本正男 さん(62)が、遊休地を  
活用した「ビオトープ」 同会は、農家だけでな  
くNPO法人や子ども会

など、地域ぐるみで荒れた農地や山林など約300haを再生。交付金を使ってさまざまな生き物が生息するビオトープを整備し、木道や休憩施設も造った。この結果、農地周辺がきれいになり、蛍やトンボなど500種以上

の生物が確認されるようになったという。  
企業と連携したイベントや研修、中学生の体験学習の受け入れなど活動も広がり、都市との交流が深まった。橋本さんは「荒れた農地を元に戻すのは難しいが、ビオトープに再生したことで多くの生物が確認され、人が集まり、地域活性化につながった」と話した。  
埼玉県鴻巣市明用・三町免環境保全会の小林秀彦さん(64)は、農村文化の継承と農地中間管理

機構を通した担い手への農地集約について紹介。小学校や子ども会と連携し、児童に生き物調査や農業体験だけでなく、地域に根付く「みょうさん祭り」「万作踊り」に参加してもらおうことで地域の絆が強まった。小林さんは「児童が参加すれば保護者にも参加してもらえ、活動が広がる。地域農業の環境を守り、次世代に受け継ぎたい」と抱負を語った。  
他にも静岡県藤枝市が地元企業と連携したビオトープづくりについて発表。参加者全員で農村の高齢化や後継者不足への対応についても意見交換した。